

経営比較分析表

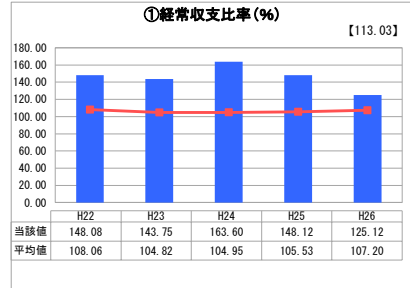
北海道 清水町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法適用	水道事業	末端給水事業	A8
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	80.89	60.02	3,600

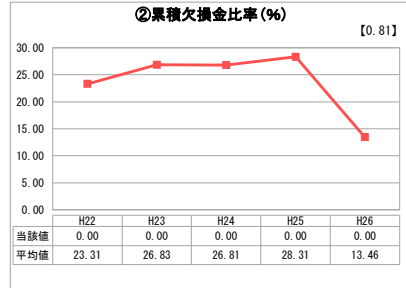
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
9,896	402.25	24.60
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
5,914	16.13	366.65

グラフ凡例
■ 当該団体の値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成26年度全国平均

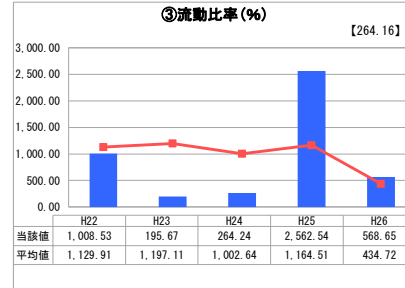
1. 経営の健全性・効率性



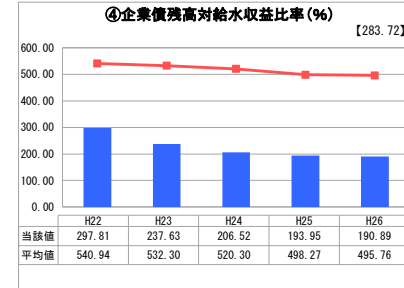
「経常損益」



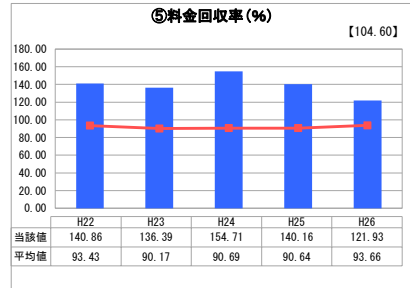
「累積欠損」



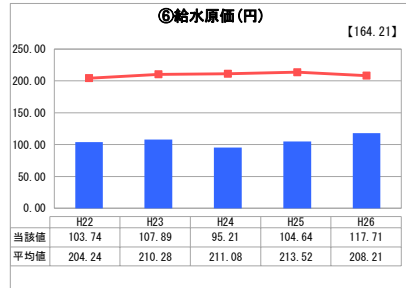
「支払能力」



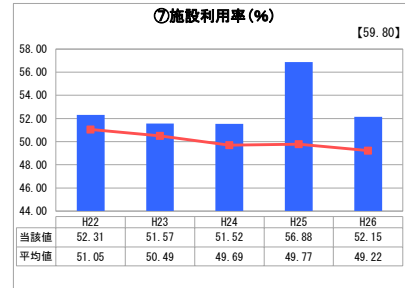
「債務残高」



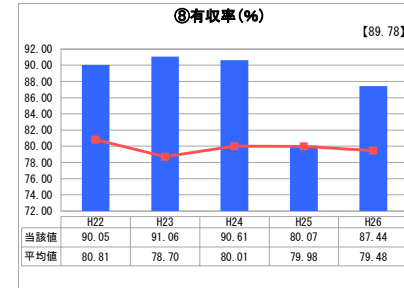
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

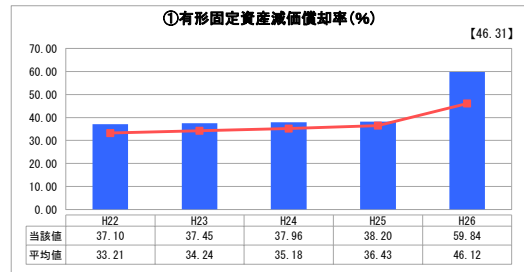


「施設の効率性」

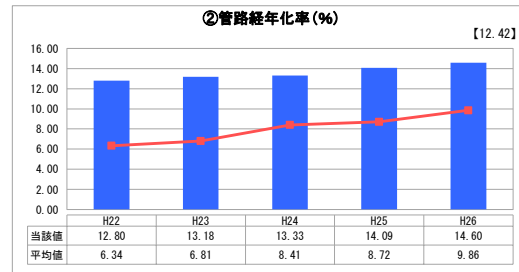


「供給した配水量の効率性」

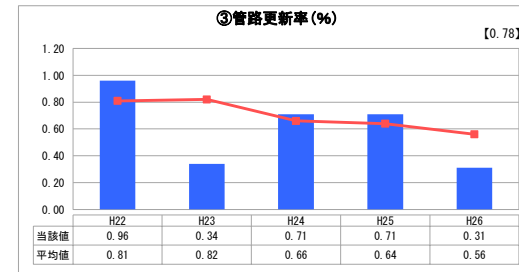
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率は、毎年度類似団体平均値を上回っており、単年度の黒字を示す100%以上となっている。
給水原価も、類似団体平均値と比較して低い水準にはあるが、修繕費等の増加により上昇してきている。
料金回収率は、類似団体平均値を上回っているが、費用の増加により悪化傾向にある。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率は、類似団体平均値を上回っており、資産の老朽化が進んでいる。
老朽管経年率は、類似団体平均値を上回っており、法定耐用年数の40年を超えた管路が増加している。
管路更新率は、類似団体平均値を下回っており、管路の更新投資等老朽化対策を強化する必要がある。

全体総括

平成27年度に法非適用の簡易水道事業を、本事業に統合したことにより、水道事業の経営を的確に把握することができるようになったことから、安全な水を安定的に供給するために、適切な管理運営に努めていく。

※ 平成22年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。